

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500987		
法人名	有限会社UTASI		
事業所名	グループホームうたし		
所在地	長崎県佐世保市鹿町町下歌ヶ浦986番地38		
自己評価作成日	平成 29 年 2 月 5 日	評価結果市町村受理日	平成29年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 29 年 3 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハンドケアの研修を受講し、スタッフの手によるハンドケア、フットケア、マッサージをほぼ毎日行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは佐世保市鹿町町に位置し、ホームから見える景色からは海が見え、地元漁協や養殖場の様子を眺めることができ、見晴らしが良い。入居者は昼食を終えると、椅子に座り、穏やかな表情で海を眺めている姿があり、ゆっくりとした時間が流れ、安心した日々を送られている事が窺える。ハンドケアの研修を受けた職員を始めとして、入居者へハンドマッサージやフットマッサージを施し、マッサージを受ける入居者は、職員に身体を委ね、心地良いひとときを過ごされている。マッサージにより、血液循環のめぐりがよくなったのか、入居者の身体機能の改善や自立の支援にも繋がった事例がある。代表者の親族が野菜を作り、無農薬野菜を使った手作りの食事の提供がなされるなど、「食への安心」にも力を入れていることが窺える。ホーム理念に基づいた入居者への支援と更なる向上へ期待が持てる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である『自分らしく あるがままに』をモットーに入居者一人一人に応じた関りを心掛けている。	事業所理念を基本に、ホームでは、毎年1月に年間目標を立てられており、今年は「思いやり」が年間目標である。職員はもとより入居者とも言葉で交わし合い、目標を日頃の生活に定着させるよう努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ可能な限り参加し地域の方々と交流が図れる環境づくりを行っている。(中学生、幼稚園、婦人部)	地元の婦人部や老人会からの踊りの披露、入居者の家族が所属するコーラス会の訪問、中学生の職場体験、夏祭りには幼稚園との交流で作品のプレゼントをもらったり、多方面で地域との交流がなされている。佐世保市からの依頼で毎年テーマを決め、地区公民館を利用して、系列施設と合同で介護教室の開催やテーマに合わせた講師による講演の実施など、地域住民50～60名が参加されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室を開催し、地域の皆さんに参加を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	手作り新聞による入居者の動向や職員が参加した研修内容を報告し、また、参加者の意見を取り入れている。家族の方々にも参加いただいている。	議事録に、ホームの行事や地域住民、家族との意見交換を記録している。職員研修、消防訓練等の報告がなされ、地域との情報共有に努め、積極的に関わる事で、地域密着型の特色を活かしたホームの姿勢が窺える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者の方に運営会議に参加していただき、事業所の情報や実績を伝えている。また、会議の議事録を提出している。	市長寿社会課職員が運営推進会議にて高齢者虐待のパンフレット配布についての内容を説明し、地域代表からの質問に答えている。当ホームの環境に沿った意見交換がなされ、メンバー全体で地域の高齢者の状況も把握でき、内容の検討を行う事で今後の地域にとって有効な会議となっていることが窺える。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修には積極的に参加し、報告を行っている。職員会議で情報を共有できるように努めている。	身体拘束マニュアルや身体拘束にあたる行為を記したものを玄関や事務室等に掲示している。職員は、日頃から目にする事により、自然と身体拘束行為を理解できている。	骨折により入院していた入居者が調査日の前日に退院し、再入居したが、転倒の恐れがある為、家族の同意を得てセンサーマットを設置している。ケアプラン変更時においてセンサーマット使用の同意内容を付記して同意を得、記録として残しておく事が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に積極的に参加し、報告所内研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修に参加し、知識を深め、研修後は報告を行い、必要時には活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を得ている。	利用者、家族への説明時は、理解しやすいような言葉で、ゆっくり丁寧を心掛け、理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日常の観察や声掛けにより思いを引き出している。家族へはカンファレンス、運営会議、家族会に参加していただき、意見や要望を聞く機会を設けている。	職員は、日頃の生活の中で入居者の思いや希望を把握する能力を身に付ける努力を行っている。面会時や運営推進会議に参加する家族に意見を聞く事ができ、面会に来る事が困難な家族には、必要に応じて電話連絡を行っている。意見や要望は、支援経過等に記録として残されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、職員が相談、提案しやすい環境づくりを心掛けている。また、職員会議の際は、意見や要望を聞き反映できるように努めている。	職員会議は、職員の意見や提案を出し易い会議であることが窺え、職員からの提案を取り入れ積極的に日頃の支援で実施に繋げ、その後職員会議で振り返り、継続して支援、または再提案、実施を繰り返す事で、各入居者の個別支援が実現できており、入居者の日々の安心・安全な日常生活の確保に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休がとりやすい取りやすい環境をつくり、また、職員一人一人の努力や実績勤務状況などを把握し、資格手当などを設け、やりがいが出るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれに合った必要とする外部研修をうながし、一人一人が意識をもって参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会に加入し、交流会や、研修会においてネットワークづくりができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居予定者、家族には可能な限り来所していただき、実際に見学されている。また、こちらから面会に出向き、信頼関係を築けるようにゆっくりと傾聴し、雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までに、本人、家族と話し合いをする場を持ち、相談しやすい環境づくりに努め対応できるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの相談内容により、状態に応じたサービス利用の説明を行い、選択肢を提供し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、本人ができることを探してできるように心がけ、職員と協力して食事の準備、片づけ清掃など行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の情報を共有し、家族の方にも相談しやすい環境づくりに努めている。本人、家族の絆を大切に、本人の支援をしていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や、馴染みの方の面会、電話や手紙、外出支援、帰宅支援に努めて本人の希望に添えるように取り組んでいる	馴染みの友人・知人等の面会には、可能であれば職員も話に交じる事で以前の情報を把握できている。受診後に以前住んでいた場所への立ち寄りや冠婚葬祭・盆正月・外泊時は、車椅子、ポータブルトイレの貸し出しなど、介助方法の提供がなされている。必要に応じて職員が冠婚葬祭等の外出支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や学習などの活動時間の際には入居者全員に参加を促し、他入居者との交流が図れるよう努めている。家事手伝いの際にもそれぞれの役割を分担し、協力し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者、家族の要望があれば、必要に応じた支援ができるように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人や家族との会話を通して希望や意向の把握に努めるよう心掛けている。	日常生活の中で入居者の求める事を把握し、会話が困難な入居者には筆談や表情の読み取りにより対応に努力されている。入居者の希望や要望、変化等を記録する事で情報共有・個別の支援を実施し、ケアプランに反映するよう努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を参考にし、生活歴や本人が望む暮らしが現在の暮らしに反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活の中で本人の心身状態にあった過ごし方や有する能力を発揮できる環境を提供し、本人の状態を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人一人に担当者を設け、本人に合ったケアのあり方、今後の課題などを事前に話し合い、後日、ケアカンファレンスを開き、家族にも参加していただき、意見やアイデアを反映した介護計画の作成に努めている。	入居者を各職員が担当し、職員はモニタリングシートを記録・作成し、担当者会議に参加した家族と話し合い、意見を聞き取り、共に検討して、本人や家族の意向を汲み取り、ケアプラン作成に繋げている。必要に応じてケアプランの見直しを実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の介護日誌への記録を残し、特変があった場合には付箋を用いて介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応し、本人の今の状態にあったサービスが提供できるようスタッフ同士で話し合い、本人や家族の意見を取り入れ柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にはできる限り参加し、交流を図りながら良い関係を築き、安全で楽しく生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意見を尊重し、納得されるかかりつけ医を定期的に受診している。また、通院困難な方には往診をお願いしている。相談報告を行い、主治医との連携が図れるように努めている。	受診が困難な入居者は、協力医の往診を受ける事ができる。受診ノートを作成し、薬や本人の状況等を伝える内容を記述し、受診時に個人カルテと一緒に持参し、提出されている。受診は、家族対応や必要に応じて職員が対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で異常を早期発見できるよ心がけ、その都度、記録に残し、看護師に相談報告を行い適切な対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はできる限り病院に出向き病院関係者と情報交換や相談を行い、本人が治療に専念できるよう医療機関とよりよい関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診、往診の際、本にの状態を主治医と話し合い、家族への相談報告を行っている。ホーム内でできる範囲を見極め、医療機関や他事業所と連携して支援に取り組んでいる。	これまでに看取り実施の入居者はいない。看取りに関する研修は受けており、看取りの実施については計画の段階である。職員に医療的ケア等の研修を受けてもらい、計画を煮詰めて、医療機関や他施設との連携を構築する体制作りを進めていく意向がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、研修への参加訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署の方、専門の方に来ていただき、火災訓練、点検を行っている。地域の方にも緊急時の協力同意をいただいて災害、緊急時ネットワークを開設している。職員は日頃から意識を高め、火災を起こさないよう防火管理に努めている。	消防署・警察署・運営推進会議メンバーである近隣住民等の協力体制にて避難訓練を実施されている。緊急時ネットワークSOSを設立し、14件の協力者から承認を得ている。月1回は自主訓練を行っており、災害に関して高い意識がある。	備蓄について、まずは水の備蓄量把握し、3日分以上を備蓄できるよう対応をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者各々を尊重し、それぞれの状態に応じて、その人に合った言葉かけで対応できるように努めている。	入居者の呼び方は、名前で～さんが基本であるが希望があれば名前を呼ぶ事もある。その言葉には、入居者への尊重を持った言葉掛けであり、入居者の希望に沿った支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い希望が言えるような雰囲気づくりを行い、自己決定や選択できるように働きかけ、本人の意思を確認して次の行動が行えるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の、その日の体調やその時の思いを尊重し、自分のペースで一日が過ごすことができるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的、又は、本人の希望時に行きつけの美容室へ通い本人に合ったおしゃれ、身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせ、お手伝いが出来るよう支援している。又、献立も考えてもらえるよう声掛けを行っている。また季節の行事にも手作りで料理を作っている。	代表者家族が無農薬野菜を作って提供されており、安心して新鮮な野菜を食べられる。行事食は、職員の思いを込めた手料理が提供されている。入居者は野菜の皮むきやごぼう削ぎ、手作りの調味料の味見等をしており、食事に関しての関わりを持つ事ができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々に応じた摂取量や、形態、服薬作用など考慮している、また、十分な水分量が確保できるよう、一日の水分量を把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に声掛けを行い、見守り、一部介助を実施している。観察を行い、歯科医療受診時、報告し連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、状態に応じてその都度声掛けを行っている。	個々の排泄を記録に残し、排泄パターンを把握し、排泄時間による声掛けや誘導を行っている。花見等の外出時には、排泄環境によって、ポータブルトイレ等を持参し、入居者が排泄に関して不安にならないよう工夫を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事や水分量を考慮し、入所者それぞれに適した、運動ができるよう声掛けをしている、薬剤必要時には、主治医に相談をし対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に合わせた入浴支援の実施。入浴剤を準備し、希望やタイミングに合わせた声掛けを行っている	週2回以上は入浴できるよう個別の支援を行っている。入浴剤や季節を感じさせる為にゆず湯等を使用し入浴を楽しめるような工夫を行っている。湯温調整には、入居者の好みの湯温を把握して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整等の環境整備を行い、休息、安眠できるように支援している。日中に活動できる時間を設け、夜間良眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書を通院記録に添付し、職員全員が確認できるようにしている。内服変更時には、記録、申し送りを徹底し、状態の変化を確認を確実にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力に応じた役割を持ち、張り合いや、喜びを持てるよう支援している。また、学習ドリルの取組、気分転換には散歩などを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節の花見には必ず出かけ、希望により、散歩、買い物に出かけている、また、食事に出かけたりすることもある。	散歩で行ける程の距離にふれあい広場と言う桜やつつじの木がある公園があり、花見を楽しむ事ができる。受診後の外食支援や近隣の保育園を訪問する事もある。遠くへの花見には、排泄に不安を持たせない為にポータブルトイレやブルーシート等を持参する等、入居者が安心して外出できる工夫がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自立されている方は、自身でお小遣い程度の金額を所持されており、お孫さん面会時にはお小遣いをあげられることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはその都度準備し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり(近所からの差し入れもある)入所者の作品などを飾り生活感や季節感を取り入れるような自然な空間づくりを心掛けている。	共有空間には、ソファでフロアを囲み、昼食後、入居者と職員が同じ空間で話をしたり、ハンドマッサージを施す職員に身体を委ねて安らぐ入居者の姿が窺えた。足浴をする入居者もおり、入居者が心地よい屋下がりの時間を過ごせるような空間作りが施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人思いのまま過ごせるよう椅子、ソファの種類や配置を考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族にも説明し、出来るだけ使い慣れた物、好みものを用意して頂き、本人が居心地の良い空間になるよう配慮している。	入居者が以前から使い慣れた物の持ち込みは自由であり、入居時に説明をしている。居室は入居者各々の思いおもいの居室作りとなっている。毎朝や入浴時等、居室を使用していない時に換気や掃除等を行い清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを配置し、靴を履くためのベンチの設置など、入所者が安全に持てる力を発揮し、出来るだけ自立した生活ができるよう工夫している。		